

自閉症スペクトラム児の多様性と自主性を尊重した療育プログラムの検討(18)

—中学生・高校生：スモールステップの導入による物語の理解をめざすプログラムの工夫—

The care and education program development that support diversity and individual initiatives of children with autism spectrum disorder: Encouraging high schoolers to take small steps to comprehend stories

○山内直哉¹・木村駿¹・高橋穂波¹・高村希帆¹・荒木穂積¹・竹内謙彰²・松元佑³

○YAMAUCHI, Naoya¹/KIMURA, Shun¹/TAKAHASHI, Honami¹/TKAMURA, Kiho¹/ARAKI, Hozumi¹/TAKEUCHI, Yoshiaki²/Yuu, MATSUMOTO³

(¹立命館大学大学院人間科学研究科・²立命館大学産業社会学部・³立命館大学大学院社会学研究科)

(¹Graduate School of Human Science, Ritsumeikan University / ²College of Social Sciences, Ritsumeikan University / ³Graduate School of Sociology, Ritsumeikan University)

Key words: 構造化, スモールステップ, 療育プログラム

目的

ASD児は、整理統合が困難で視覚優位である者が多い(平田・海原ら, 2014)。これを踏まえ、本研究ではASD児を対象とし、彼らが持つ認知特性に焦点を当てた。彼らが次にしなければならない手順及び、スタッフが設定したテーマを理解することを目的とし、「構造化」の概念を用いて課題と向き合いやすい療育プログラムを検討した。

ASDの特性として掲げられている「見通しの持てなさ」に着目し、昨年度より系統的に課題に取り組むことや活動内容の連続性が理解できることを期待している。

方法

分析の対象とした期間は、2019年9月から2020年2月までの6ヶ月間とした。対象児は、意図的にルールを乱す傾向にある参加児、対面での言語表出に困り感を抱える参加児の2名とした。

本研究では、スモールステップを通して設定されたテーマや課題の内容を理解できるかを、療育プログラムの工夫点や子どもの様子(写真・ビデオなどの映像データ)、スタッフの振り返りによる記録を用いて検討を行った。検討の対象とした活動は表1の通りである。

表1 対象月と活動内容

対象月	活動内容
10月	作ったおもちゃでおばけをやっつけろ！
12月	パンケーキ作り
2月	輪投げで鬼退治

結果

設定しているテーマの内容によって理解度が異なった。対象児の言動から、「おばけ—倒す」といった二項関係の理解や、鬼を基に「2月」「節分」といった類似概念に関連付けられる姿が見受けられた。しかし、パンケーキ作りのように物語性がなく、関連性が見出せない作業においては、こちらが設定した物語に沿うことはなかった。

考察

年齢や今後の進路を考慮し、見本を提示するなどのスモールステップを踏みながらの作業を計画した。その結果、対象者は課題に対し意欲的な態度を示し、集中力を持続させることができた。作品の質は不十分な点もあるが、概ね完成させることができた。こちらが提示している物語を理解することに関しては、イメージを持つことが容易な場合と難しい場合があり、特に見通しを持って何かを作り上げていくことに関しては難しい様子であった。しかし、登場人物がファンタジーのものや、世界観が興味の惹かれるものであれば主体的にその中に入っていく様子が見受けられた。また、事前に設定していた世界観に沿って行動することもあれば、自らが新たに世界観を作り出すこともあった。

物語を自ら作り出した時は、こちらが設定していたものとはズレが生じているが、概ね関連のある内容と見て取れた。このように、背景にあるテーマを理解するためには時間を要したり、環境や思考内容を変えたりしていくことが必要ではないかということが示唆された。

*本研究は立命館大学人間科学研究所の療育プログラム開発プロジェクトの一環であり、立命館大学の研究倫理の指針に基づいて進められている。研究発表にあたってはプロジェクト参加児の保護者の同意を得ている。